

## 見た目問題

大蔵中学校 一年 徳丸 とくまる 晴哉 はるや

「人権」と聞くと様々な問題が頭に浮かんでくると思いますが、僕は人権問題を抱える側の人間で、抱える側の僕を支えてくれた家族や友達たちのおかげで、人権問題は「相手を思いやる事」と「相手の事を知る事」で、簡単に解決出来ると言う事を学びました。

僕の顔は単純性血管腫と言う、生まれつきの赤あざがあります。それは、僕のことを知らない人からすると、「普通のこと」ではないので、僕のことを変な人だという人もいました。ですが、それ以上に僕を普通の人と同じように接してくれる人がたくさんいて、自分が普通の人と一緒にいたいという気持ちになりました。

母は、保育園とくらべ預ける時間が短かく仕事も夜勤になるなど、負担が多いにも拘らず同じ小学校に通う友達が多いから僕が楽だろうと幼稚園に通わせてくれました。

姉は、僕の顔を見て気持ち悪いと言われた時に本気で怒っ

てくれました。そして友達は他の友達と同じように、遊んだり、喋りかけたりしてくれました。僕に気を使ったりせず普通の友達として遊んでくれたんです。

六年生になり、「その顔どうしたの？」と聞く人もほとんどいなくなり、鏡を見なければ自分の顔にあざがあると忘れていくくらいでした。

僕は、色々な人に支えてもらい今は充実した生活を送っています。それは、僕のことを知ってもらっているからです。それでも僕のこと、単純性血管腫のことを知らない人にとっては変な顔の人と思われる事だってあります。

たとえば、中学校に入ってすぐの頃は、クラスメイトから「どうしたの？」と聞かれる事がありました。それは、ちがう小学校の子なので、僕のことを知らないその子たちからすると、普通の顔ではなかったからです。ですが今は、その子たちも僕はこれが普通と言う事を知っているので、普通の友達と言う認識に変わりました。

そしてこれは、決して見た目問題だけの話ではなく、LGBTや、差別などに関しても言えることだと思います。

その人の個性を知り、その個性を尊重し合い思いやりを持って一日一日を過ごしていくことによって、毎日が少しだけでも明るいものになっていくと思います。

障がい、黒人差別、LGBTQ+問題。このような、見た目や精神的な問題は知ること、思いやりを持つことで、簡単に解決できることだと思えます。

そしてこれはだれにでも、簡単にできることです。一人ひとりが気持ちよくくらしらせるように、まずは小さいことだとしても、できることをできるかぎりやることが大切だと思います。そして、支えてもらった分、他の人に僕が支えてあげられるようにしたいです。